

福岡医発第718号(地)

平成15年 7月 7日

各 医 師 会 長 殿

福 岡 県 医 師 会
会 長 関 原 敬 次 郎



本年の咽頭結膜熱に関する対策について

今夏の咽頭結膜熱の流行については、例年より早い時期から増加傾向がみられ、今後さらに拡大されることが予想されることから、文部科学省スポーツ・青少年局学校健康教育課より都道府県教育委員会等へ感染拡大防止のため下記の留意事項にて対応するよう通知がなされた旨日本医師会より連絡がありましたので、お知らせいたします。

つきましては、貴会におかれましても、本件についてご了知いただき、学校医への周知方よろしくご高配の程お願い申し上げます。

記

1. 学校において児童生徒等の健康観察を十分に行うとともに、学校や地域における患者発生状況を把握する。
2. 手洗いやうがいを励行するなど、予防のための指導を充実させる。
3. 水泳前後のシャワーの励行やプールの環境衛生管理の徹底を図るなど、予防措置を充実させる。



(地Ⅱ48)

平成 15 年 6 月 26 日

都道府県医師会

学校保健担当理事 殿

日本医師会常任理事

雪 下 國 雄



本年の咽頭結膜熱に関する対策について

時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

今夏の咽頭結膜熱の流行については、例年より早い時期から増加傾向がみられ、今後さらに拡大されることが予想されることから、文部科学省スポーツ・青少年局学校健康教育課では、学校における咽頭結膜熱の感染拡大防止のため、別添の通り、都道府県教育委員会等に対し、本年の咽頭結膜熱に関する対策についてと題する通知を出しましたのでお知らせ申し上げます。

通知では、学校における咽頭結膜熱の感染拡大防止のための留意事項として、①学校において児童生徒等の健康観察を十分に行うとともに、学校や地域における患者発生状況を把握する②手洗いやうがいを励行するなど、予防のための指導を充実させる③水泳前後のシャワーの励行やプールの環境衛生管理の徹底を図るなど、予防措置を充実させる等を挙げております。

つきましては、本件に関しご了解いただくとともに、学校医に対し周知されますようお願いいたします。





事 務 連 絡
平成15年6月20日

附属学校を置く各国立大学事務局
国立久里浜養護学校 殿
各都道府県私立学校主管課
各都道府県教育委員会学校保健主管課

文部科学省スポーツ・青少年局学校健康教育課

本年の咽頭結膜熱に関する対策について（依頼）

今夏の咽頭結膜熱の流行状況につきましては、例年より早い時期から増加傾向がみられ、今後さらに拡大されることが予想されます。本疾患は、例年6月頃から徐々に増加しはじめ、7～8月にピークを示す夏期の疾患で、プールを介して流行することが多いので、プール熱とも呼ばれています。感染経路は通常、飛沫感染ですが、プールでは眼の結膜からの感染も考えられており、注意が必要です。

ついては、学校における咽頭結膜熱の感染拡大防止のため、下記の事項に留意し、適切に対応されるようお願いいたします。

なお、都道府県教育委員会におきましては、域内の市区町村教育委員会に対して、また、都道府県知事部局におかれましては、所管の学校法人に対して本件について周知されるよう併せてお願いいたします。

記

- 1 学校において児童生徒等の健康観察を十分に行うとともに、学校や地域における患者発生状況を把握する。
- 2 手洗いやうがいを励行するなど、予防のための指導を充実させる。
- 3 水泳前後のシャワーの励行やプールの環境衛生管理の徹底を図るなど、予防措置を充実させる。

（本件連絡先）

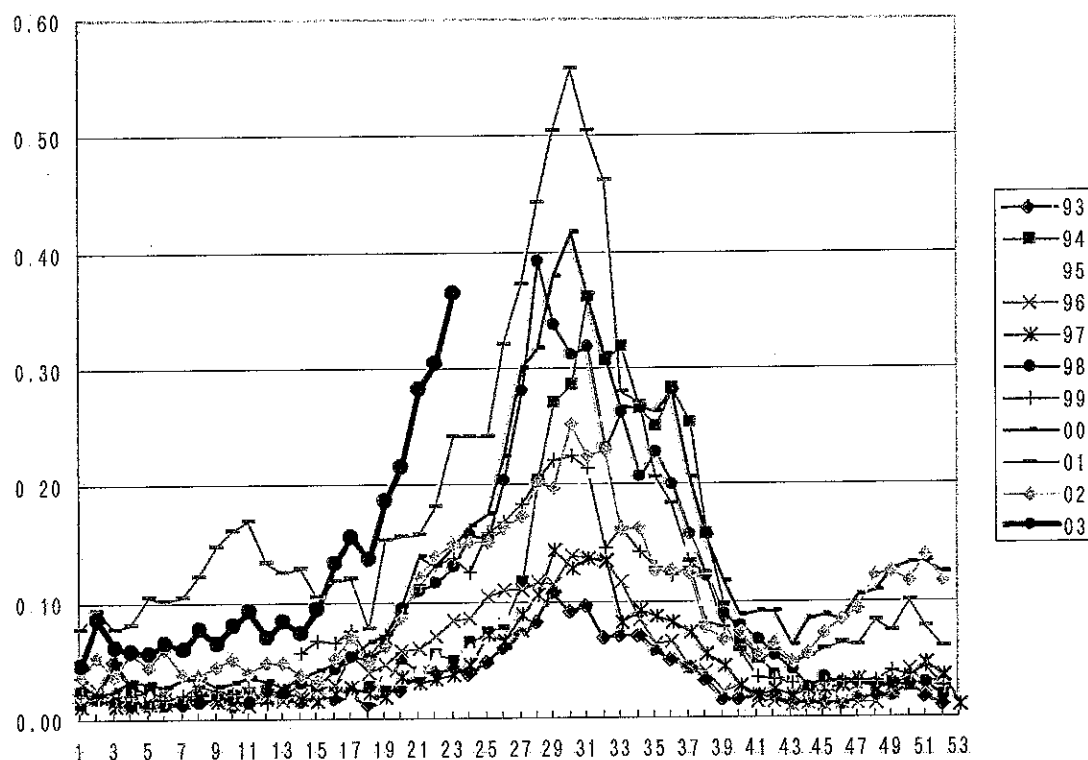
文部科学省スポーツ・青少年局学校健康教育課
学校保健係

TEL：03-5253-4111（代表）（内線2918）

FAX：03-3592-2960

23週

◆ 咽頭結膜熱



咽頭結膜熱の定点当たり報告数は例年より多い状態で推移しており、第23週でも更に増加しており、過去10年間のうちでも最大となり、昨年のピークの値（図）過去10年間の咽頭結膜熱の週別定点当たり報告数をすでに超えている。以前から多かった大分県だけでなく、福岡県、富山県などでも報告数が多くなってきている。報告された約8割が5歳以下の小児となっている。

咽頭結膜熱から分離された病原体は現在アデノウイルス3型、あるいは2型が主として分離されている。数は少ないものの7型も分離されている。

本疾患はプールでの感染も見られることからプール熱とも呼ばれる。例年、6月頃から徐々に増加しはじめ、7～8月にピークを形成する夏季の疾患である。

感染経路は通常飛沫感染であるが、プールでは結膜からの感染や経口的な感染も考えられている。症状としては、5～7日の潜伏期の後に発熱、頭痛、食欲不振、全身倦怠感、咽頭痛、結膜充血、眼痛、羞明、流涙、眼脂などの症状があり、それらが3～5日間程度持続する。基本的には良性のウイルス性疾患であり、脱水を防ぐなどの保存的な治療が中心となる。

感染予防のためには、患者のタオルなどを共用しないなどの対策が取られる。発症してから、眼・呼吸器系では7～14日間、便からは30日間ウイルスが検出されることもある。

1994年頃からアデノウイルス7型による咽頭結膜熱の流行がみられているが、同ウイルスによる肺炎などの重症例が報告され、問題となった。近年の報告数は多いものではないものの、依然として検出がみられているので、引き続き注意が必要である。

本疾患は、今後夏にかけて報告数が増加してくると考えられるので、流行に注意するとともに、プールを介しての流行もあるので、水泳前後のシャワーやプールの水の消毒なども大切である。